

令和7年度第2回平塚市美術館協議会

- 開催日時 令和8年3月18日(木) 14時00分～16時00分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 委員 吉村維元、高橋孝祥、靱山昌夫、小松誉、木村一彦、田中伸一、清田靖子（敬称略）
<欠席者>土屋浩明（敬称略）
事務局 石川社会教育部長、加藤特別館長、小澤館長、勝山学芸担当長、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員、鈴木学芸員、上家管理担当長、平本主管
- 傍聴者 なし

■会議の概要

1 開会

2 議題

- (1) 令和7年度の事業報告
 - ・作品管理業務
 - ・展覧会
 - ・教育普及
 - ・その他の事業
 - ・施設利用者等の統計
- (2) 令和7年度事業の点検評価
- (3) 令和8年度の事業予定について
 - ・展覧会
 - ・教育普及
- (4) 平塚市美術館改修の実施
- (5) その他

3 閉会

■2 議題及び質疑…吉村会長に進行を依頼。

- (1) 令和7年度の事業報告
「資料2」に基づいて事務局から令和7年度の事業実績について説明した。
…（質疑）特になし。
- (2) 令和7年度事業の点検評価
予め提出いただいた御意見をまとめた「資料3」に基づいて事務局から説明した。
…（質疑）以下のとおり。

○委員

目標と実績を分野ごとに設定し御報告をいただいておりますが、例えば先ほど、来館者の目標が10万人で実績が6万人との話がありましたけれども、やはり目標値に対しての乖離が大きいかなと思います。

あまり数字がかけ離れ過ぎていると、まずぱっと見の印象があまりよろしくないということもありますし、それは置いておいても、例えば前年度に対しての増減の実績の結果について分析するときに、やはり目標値と余りにかけ離れ過ぎていると、そのあたりの精度がちょっと見えにくくなるのかなと感じています。

単純に目標値を下げろということではなく、そこはもう少し精度をあげて、数字をある程度積み上げた上で、結果としてこういう数字の目標を立てました、それに対してこうです、ということに取り組むことによって、また見えてくる部分もあるのかなと思っています。

あともう1点ですが、予算の話をお伺いしたいです。来年から2年3ヶ月間、休館になりますが、その間の美術館の予算は例年どおりになるのか、それとも休館しているのでその分減って

しまうのが気になっています。

休館することである程度予算に余裕ができるのか分からないですが、もしゆとりがあるのであれば、ある程度プールして再度オープンするときに、ちょっと派手にというか、豪華な感じにみたいなこともできたりするのかなと思ったりもしているのですが、もう既に決まっていたりすることが何かあれば教えていただきたいです。

○事務局

まず目標値についてですが、今のところは入場者数の数値のみをお示ししているということで、この結果になっております。

実はこの件について、今館内でも話し合い、他の目標値の設定も検討しています。

それはどのように出すのかというと、アンケート上のパーセンテージ、例えば夏休みの展覧会であれば、初めて来た人の割合を何パーセントとして設定するとか、そういった定性目標で数値に還元できるようなものはパーセンテージ等で設定しながら、複数の展覧会ごとに設定していくことによって、その展覧会が何を目標として誰に訴求をしたいのかということもご覧いただけるような形で目標値を設定したいと、検討しているところです。

目標値そのものについては、何が適正かは中々難しい問題ではあるのですが、今後お示しできるようにしたいと思っております。

○事務局

予算についてご説明いたします。我々は地方自治体ですので、予算は単年度ごとに完結しています。

休館中、具体的には、令和8年度の1月から令和10年度いっぱいになりますが、その間は基本的に例年に近い予算の規模感でと考えています。

ただし、館の維持管理に係るもの、例えば保守委託であったり、業務委託であったり、その期間中不要なものについては、当然予算計上は行わない予定です。

ただ、工事請負費にかかる業務委託で一部継続をするようなものもあります。

具体的には、エレベーターの保守や警備業務などがあります。

通常行っている業務、展覧会もしくは教育普及の事業に関しては休館中であっても継続して行う予定でありますので、予算の規模感としては例年に近い形の規模感で考えております。

休館を前向きに捉えて、その期間だからこそ手をつけられるような事業についても、現在考えています。

多少の増減があったり、もしくは事業ごとの予算規模の偏在というのは出てきたりするかとは思いますが、トータルの規模感としてはこれまでと同様で考えています。

また、再開にあたって何を行うかは館内で考えておりますが、その予算については冒頭お答えさせていただきましたとおり、単年度ごとに完結しているものですので、貯めたものを翌年度にプールするというような形は、繰り越し等の制度もあるのですが、なかなか難しいところです。

企画や検討等は休館期間中に行った上で、どういったことをオープンにあたって行うのかを考えていきたいと思っております。

○委員

ワークショップの開催で、ボランティア、ひらびーの活動上の権利の充実ということを書かせていただいたのですが、ひらびーの活動が4月より12年目に入るかと思えます。

メンバーも多分100名以上という結構な人数で活動していると思うのですが、例えばボランティアガイドラインの策定というものを提案させていただきたいと思っております。

理由・目的としては、ボランティアの継続率、満足度の向上ですとか、あとは安心して関わられる活動環境の整備などのためです。

長く続けられるボランティアを目指すために、そういうガイドラインがあってもいいのではないかなと思いました。

補足ですが、この提案は現在の運営を否定するものではなくて、よりよく長く続けるため、今後の質の向上を保つために、環境整備の一環としてあったらどうかと思って提案させていただきました。

○事務局

当館のボランティア活動に関わっていただいている方は、主に対話による美術鑑賞のひらびーさんたちと夏休みのイベントに中学生高校生がいます。

現状では、いわゆる傷害保険、何か事故やケガがあったときに、平塚市全体でかけている保険はございます。

委員のご発言で具体的にどういったものを想定しているかによりますが、ボランティアの方々が継続的にできる活動に関われるように、制度的に担保するようなことができるかどうか、ということについては、できる部分とできないという部分があるかと思いますが、その部分に関しては検討できればと考えます。

○事務局

あと当館のボランティアの方々には自主研修なども繰り返されているように、かなり自主的に活動されていますので、美術館だけの意見よりも、ボランティア全体のご意見なども伺いながら、いろいろな角度で検討していくことになろうかと考えています。

○委員

ワークショップや美術の普及を見ていて、学校観覧は高校がゼロという数字が載っています。その他のボランティア等を見ると、高校生の参加もあるのかなあというところでは。

高校は小中学校に比べると、大分職業感が確立してきて、その分野について興味のある生徒と興味のない生徒がだいぶ分化してきます。

将来を真剣に考えて美術の方向に進もうという生徒も出てくるのかなという点では、学校教育の外で専門的な教育を受ける機会があるのはとても良いことで、ぜひ高校としても高校生の参加を広げていきたいと思っています。

この地域は県内でも有数の支援学校が集まり、市内には中等教育学校もあるバラエティに富んだ地域でもあります。

校長先生方が一堂に集まる会議がありますので、もし分かればこの地域内の高校生がどれぐらいボランティアで参加しているのか等、具体的な情報があれば出して、話していきたいと思っていますので、教えていただけますでしょうか。

○事務局

どれくらいの精度で出せる資料があるのかは確認して、メールなどでお知らせするようになるかと思っています。

といいますのも、高校から大学ぐらいにかけては、がっくりと美術館に来なくなる世代になります。

ファミリーになるとまた戻って来てくださるのですが、美術館にはあまり足が向きにくくなる世代ではありますので、先生方からの働きかけがありますと大変ありがたいです。

それにただ見るだけではなくボランティアとして、いわゆる中の人として働くことによって美術館に対しての親近感とか美術館がどういう場所かというのを理解していただけるのは、こちらとしては大変ありがたいことだと思いますので、ぜひご協力いただければありがたいと思います。

○事務局

高校生の利用に関しては、毎年行っている中学生高校生ボランティアへの参加は、去年は15人の参加でした。

中学生の割合が少し多かったと思いますが、かなり積極的にご参加いただいています。

地域の方もいらっしゃいますし、横浜など遠めのところからご参加いただく方もいらっしゃいます。

他に美術活動をしている中学高校の活動でレクチャーをしたり、ワークショップをやったりというような参加の形態があります。

今年度は高校の美術部はなかったようですが、支援学校から団体の来館をいただいています。具体的に高校のクラス単位とか単位との参加はあまりないのですが、個人で観覧だとか、いろいろイベント、ワークショップ等に参加していただいている方が多いかなと思います。

○委員

資料3について質問します。

点検評価シートの目標値と実績が書いてありますが、例年だと10ヶ月分ということで記載があって、前年度と今年度の比較をしながら会議で意見とか、希望のようなものを書いているのですが、来年は9ヶ月になってしまいます。

その扱いはどうのようになるのかというのがまず1点と、それから次に、休館したときに点検評価シートはどのようになるのかというのを知りたいです。以上2点です。

○事務局

まず令和8年度の点検評価があります。

ご指摘のように、来年の1月から3月については事務所の移転ですとか収蔵品の運び出しが控えておりますので、展覧会業務と教育普及啓発業務ができなくなりますが、点検評価の取り組みの継続性という観点から考えたときに、いたずらにこの評価シートをいじることはしないほうがいいのかなと思っています。

そのかわりその各事業に付帯した取り組みがいろいろ出てまいりますので、そういった部分についての記載を私どもでさせていただきまして、そういった面についての評価ということもこれから賜っていただければと考えているのがまず1点です。

もう1つ、令和9年度と10年度の休館中の点検評価のあり方ですが、展覧会は平塚市美術館の建物自体で実施することはありませんが、現在、東海大学の松前記念館様に当館の収蔵品をお貸しし、いわゆる共催という形での展覧会をできないかを検討しています。

またこれとは別に、他の全国の美術館に私どものコレクションを巡回させていただいて、展示いただくような機会も設けられないかということを探索しています。

従いまして、この点検評価の柱立てはそのままに、その点検評価の数字をどういった形で反映させることができるかは、まだ検討中ではありますが、柱立てはそのままにその内容を評価していただく方向で考えています。

また、普及啓発業務については、先ほどの点検評価でもご説明したように、アウトリーチの形で、これまで以上に皆様のところへ赴きながら、この当館を知っていただくこともやっていきたい想いがありますので、場合によっては柱立ての数値目標を上回ることもあるかもしれません。

そのあたりの取扱いについては、繰り返してしまいますが、シートについてはいたずらに変えることはせずに、継続的な取り組みの中で休館中の取り組みをきっちり抑えていくという形で表現したいと思っています。以上です。

(3) 令和8年度の事業予定について

「資料4」に基づいて事務局から令和7年度の事業実績について説明した。

…(質疑) 特になし

(4) 令和8年度の事業予定について

「資料4」に基づいて事務局から令和7年度の事業実績について説明した。

…(質疑) 以下のとおり

○委員

2点ほどちょっとお伺いしたいことがありまして、まず1点目は、レストランは当然休館中閉店されるという認識でよろしいですか。
再開後はどうなるのでしょうか。

○事務局

まずレストランの営業に関してですが、工事に際し、館内の設備、電気設備、それから給排水といったものが使えなくなりますので、こちらは営業を休止することになっています。そのあたりはレストランと調整済みです。

2年と3ヶ月間休館する関係上、その期間営業ができなくなりますので、当然経営に関わるお話ですので、どうされるかということでお話を投げかけてあります。

再開時にどうされるか、まだ正式にご回答をいただけていないので、継続するのか、それともしないのか、形態を変えるのか、現状通り続けるのか、どのように行くのかは、我々も回答いただいてから対応を考えるということになると思っています。現状では以上です。

○委員

美術館再開後のレストランは現状まだ白紙という認識でよろしいですね。

あともう1点ですが、中央公民館とか、あと青少年会館とか勤労会館も閉館になるかと思うのですが、館内にいくつか美術作品があると思います。

例えば彫刻とかが勤労会館にあると伺っていて、うちの協会のメンバーもその作品の心配をしていました。

例えば美術館で回収して保管していくような動きは今のところないのでしょうか。

○事務局

中央公民館、勤労会館の2館が閉館の上解体ということ公表しておりますが、内部にある絵画類については、担当の学芸員が既に調査を行っており、館内の作品等については把握をしているところです。

それらについて、当館で収蔵に値するものなのかどうかの調査を現在行っているところで、今後の扱いについてはその調査が終わり次第、内部で検討して、どうするかの方針を立てることになると思っています。

○委員

もし回収されない、保管されないとなると、作家に返却という形になるのでしょうか。

○事務局

現状、備品の所管は当館ではなく、勤労会館、中央公民館が所管しているものですので、所管部署が判断することになっています。

当然美術品に関する知見の部分についてはこちらが専門ですので、意見を求められた際は美術館としての意見をお伝えします。

(5) その他

「資料6」に基づいて事務局から令和8年度の当初予算について説明した。

…(質疑) 特になし

■閉会

特別館長より閉会を告げた。

以上